

【目次】

1. 社会主義協会（後の社会民主党、前身は社会主義研究会）から120年、2月25日！
2. 第91回メーデー中央大会（4月29日・代々木公園）に友愛労働歴史館が出展します！
3. 河合栄治郎研究会が開かれました、2月15日・駒澤大学！
4. 『キッコーマン株式会社百年史』の寄贈を受けました！

1. 社会主義協会（後の社会民主党、前身は社会主義研究会）から120年、2月25日！

2020年2月25日は社会主義協会の結成から120年です。社会主義協会の前身は1898(明治31)年に結成された社会主義研究会であり、同研究会は1900(明治33)年2月25日に社会主義協会と改称。そして社会主義協会は1901(明治34)年に日本最初の社会主義政党・社会民主党（結党不許可）へと発展したことで、日本社会主義運動史に記録されています。



1898(明治31)年10月18日、ユニテリアン教会(協会)・惟一館(写真。現在の友愛会館)で社会主義研究会第1回例会が開かれました。社会主義研究会は同志社時代からの親友、安部磯雄と村井知至により準備され、会長は村井知至(教会牧師)が就任し、事務所は惟一館に置かれました。会員は村井知至・佐治實然・神田佐一郎・豊崎善之介・岸本能武太・新原俊秀・片山潜・河上清・高木正義らで、全員がキリスト教徒とされています。当時、安部磯雄は京都の同志社におり、上京後の第7回例会(1899年5月21日)から参加しています。因みに安部磯雄・岸本能武太・村井知至・新原俊秀は同志社のメンバーです。

社会主義研究会は1900(明治33)年2月25日の第12回例会で社会主義協会へ改称し、安部磯雄が会長に就任。第17回例会(1901年3月24日)まで開かれ、事務所は神田キングスレー館に置かれました。3月2日には社会主義学術大演説会(神田青年館)を開催しています。



社会主義協会は1901(明治34)年5月18日に社会民主党へと発展しますが、20日に結社禁止となっており、社会主義政党としての活動実績はありません。しかし、「社会民主党綱領」「社会民主党宣言書」が残され、社会に大きな影響を与えました。結成メンバーは安部磯雄、片山潜、幸徳秋水、河上清、木下尚江、西川光次郎の6名で、幸徳を除く5名がクリスチャンでした。

2. 第91回メーデー中央大会（4月29日・代々木公園）に友愛労働歴史館が出展します！



今年は日本で最初のメーデーが東京・上野公園で開かれてから100年。友愛労働歴史館はこれを記念し企画展「日本のメーデー100年—自由と団結の旗のもと—」(2020.1.6~6.30)を開催中です。

また、メーデー100年を記念し、友愛労働歴史館は今年の第91回メーデー中央大会に初出展いたします。第91回メーデー中央大会は4月29(水・祝日)10:00~14:00の間、東京・代々木公園で開催されます。8:15から結集デモ、10:30から中央大会

式典、そして 10:00 からイベント・出展が行われます。当歴史館の出展場所は、会場の中央ステージや音楽堂に近いブースエリア A。メーデー参加の皆さんはぜひお立ち寄りください。

3. 河合栄治郎研究会が開かれました、2月15日・駒澤大学！



毎年、河合栄治郎（1891. 2. 13～1944. 2. 15）の命日に開催されている河合栄治郎研究会は2月15日（土）午後、駒澤大学駒沢キャンパスで開催されました。

河合栄治郎研究会の創業者で会長の川西重忠桜美林大学教授は、2019年12月3日に逝去されました。このため今年の河合栄治郎研究会では、第一部として「川西重忠先生を忍んで」（松井慎一郎・聖学院大学）が報告されました。

第二部の研究報告では①「社会民主主義者としての蟬山政道—1910～1920年代を中心に—」（王継洲・早稲田大学大学院）、②「七博士事件の再検討—社会政策学会での活動を中心として—」（前原淳史・同志社大学大学院）、そして③「日本の自由主義と河合栄治郎」（清滝仁志・駒澤大学教授）がそれぞれ行われました。研究会には河合栄治郎の研究者や学生の他、労働組合OBらも参加しました。友愛労働歴史館からは間宮事務局長が参加しました。

4. 『キッコーマン株式会社百年史』の寄贈を受けました！

友愛労働歴史館はこの程、キッコーマン株式会社より『キッコーマン株式会社百年史』（キッコーマン株式会社100年史編集委員会。2020年1月発行）の寄贈を受けました。これは当歴史館が同『百年史』の制作に若干の協力をしたことによります。

戦前の野田醤油（千葉県野田市）では大正時代から労働争議が起きていましたが、1927（昭和2）年9月から翌1928（昭和3）年4月にかけて起きた野田醤油争議は、総同盟関東同盟会の勧告を無視して行われた大争議であり、組合員子弟の同盟休校や天皇直訴事件で知られています。

同『百年史』の「大正デモクラシーと労働運動の高まり」（29～36ページ）は、写真入りで同争議について記述し、松岡駒吉（総同盟関東同盟会）の「涙の大演説」にも言及しています。

「争議は長期戦となったが、協調会の添田敬一郎常務理事が調停役となり、総同盟側の鈴木文治、松岡駒吉との話し合いが進められ、ようやく解決に向かった。そして1928年4月20日、総同盟と覚書の調印に至った。……。調停当日に開催された争議団の解団式でヤジと罵声が飛び交うなかで松岡駒吉は、『労働組合運動は艱難と辛苦の歴史だ。われわれは鉄のごとき意思を持ち、牛の如き忍耐を持って一步一步敵に押し迫らねばならぬ。第一諸君は、わが関東同盟の勧告を聞かず、敵の情勢を知ることなく、この大罷業を開始したではないか。願わくは、再び今日の軽率を将来に結果することないように、慎重なる考慮すべきである』と語ったという。……」

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール yuairekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairekishikan.com>

唯一館から126年、友愛会から108年
